

2005年文京春闘共闘会議発足宣言

職場・地域で働くみなさん、私たちは本日、2005年文京春闘共闘会議を発足させました。日本はいま、戦後、労働者・国民のくらしと人権、平和を宣言した日本国憲法がおおきな危機にたっています。

自衛隊のイラク派兵を、機に、海外での武力行動、「戦争できる日米同盟」への動きがいっそう強まっています。昨日、小泉・自公政権は派兵延長の根拠が崩れたにもかかわらず、臨時閣議で「基本計画」を変更して派兵の1年延長を強行しました。

小泉・自公政権は、憲法改悪の前段として、次期通常国会で「国民投票法案」の成立と「お国のための教育」から人間として大切にされる教育へかえた「教育基本法」、「公務員制度」の改悪を狙っています。

労働者・国民のくらし・営業が深刻さを増しているにもかかわらず、介護保険制度の改悪、混合診療の導入、労災保険の民営化など構造改革・規制緩和の名で社会保障制度改悪を推進し、財界・大企業の賃金・雇用破壊を後押しするために、「裁量・派遣労働の対象拡大」「ホワイトカラーイクゼンプション」「金銭支払いによる雇用の終了」など労働法制の改悪をすすめようとしています。同時に、「三位一体改革」による各種の補助金の削減や「指定管理者制度」による自治体リストラの強行で低賃金・不安定雇用労働者を大量につくり出そうとしています。

また、定率減税の半減・廃止、老齢煮控除廃止、課税最低限の引き下げ、消費税増税を狙い、労働者・国民からさらに税金を巻き上げようとしています。

こうしたもとでたたかわれる2005年春闘では、労働者・国民の生活改善をめざし、将来展望が持てる賃上げを勝ち取るために全力をつくします。未組織労働者・パート・派遣労働者をはじめとする非正規労働者の共感を得る賃上げ・労働条件改善と憲法改悪阻止、福祉・社会保障の充実、消費税増税阻止をはじめとする国民的課題の要求実現をめざします。

文京春闘共闘会議は、職場を基礎に組合員の要求とエネルギーを結集し、「みんなで討論、みんなで決定」の全員参加をめざし、区内ではたらく労働者・労働組合に共同のたたかいをよびかけるとともに、区内の諸団体や区民との共同行動を促進します。

文京春闘共闘会議は、区内で働く労働者・労働組合や区内の諸団体・区民に、一致する要求での共同のたたかいをよびかけ、発足宣言とします。

2004年12月10日

2005年文京春闘共闘会議結成総会